



夢魔



川崎ゆきお

「夢魔と悪夢はどう違うんでしょうねえ」

妖怪博士付きの編集者との会話だ。最近の仕事ではなく、休憩でやって来る。サボりに来ているのだ。しかし、一応は妖怪博士から話を聞き出すという大義名分はある。

「漢字の並び通りだろう」

「悪い夢は納得できますが、魔は駄目でしょ」

「悪い夢よりキツイのだろうなあ」

「夢魔ですよ。夢魔。こんなの滅多に使いませんよ。夢の中に出てくる悪魔です。バケモノですよ。悪魔なんだから、キャラが立ってますよ。それが夢の中に現れる。これはやはりまずいです」

「そうだなあ」

「そうでしょ。悪夢を見たは言いますが、夢魔を見たなんて、聞きませんよ」

「なるほど」

「夢魔って、何ですか」

「私は夢のことは詳しくは分らんが、一度見た記憶などが再現されておると思う。または組み合わせたり合成したりでな。ところが夢魔となると、夢を見ておる人物とは関わりなく出てくる。記憶にない、または組み合わせ不可能な絵だ。自前で作れない絵ということになり、これは外部から入り込んだとみるべきだろう。妖怪的に言えば、人の夢の中に住む妖怪だな」

「割り込んで入ってくるのですね」

「きっとそうだろう。ただ、夢の中の出来事はよく分らん」

「夢の中で、といいますか、深い意識の底では、いろいろなものと繋がっているのではないでしょうか」

「共通する無意識というやつだな」

「はい」

「無意識なので、調べようがない。何とでも言える」

「人はへびを怖がりますよね。これは共通する何かでしょ」

「いや、へびを怖がらん人もおる」

「まあ、そうですが」

「夢の中で観音菩薩が現れた。というような例は多い。だから、悪魔が横入りしたとしても、不思議ではないが、問題は形じゃ」

「はい」

「さて悪魔だが、その悪魔、どんな絵だったのかだ。ここがポイントだと思う」

「きっと鬼のような凄い形相のキャラじゃないですか。または人間なのに野獣に近い顔かたちで」

「しかし、本当に夢の中に悪魔がいたとしても、その悪魔、きっとリアルなものだろう。その場合、それを悪魔だと気付かないかもしれんぞ」

「どういうことですか」

「こちらが想像している絵とは違う形をしているということだ」

「ほう」

「何が、ほうじゃ」

「はい。感心したので」

「本当の悪魔は普通の姿をしておる。という名言がある」

「誰ですか。そんな名言を発したのは」

「夢の話なので、夢の名が付く夢野久作じゃ」

「なるほど」

「神も仏も妖怪も、悪魔も、それはイメージじゃ。実際は違う形かもしれん」

「じゃ、悪魔の横入りも、やはり内部だけのことなんですか」

「それは分からん。悪魔のようなものが、その夢見る人に分かるように、そういうキャラ絵を見せているだけかもしれんからな。初めて見る絵でも、何となく組み合わせれば、それに近い形になる」

「今日は難解です」

「だから、そういう話は聞くな。私もよく分かっておらんのでな」 「はい、お邪魔しました」

「邪魔というのも、悪魔の眷族かもしれんとう」

了